

2014 年（平成 26 年）の近畿地方の天候

本資料は、近畿地方の 11 の観測地点（近畿日本海側：豊岡、舞鶴、彦根、近畿太平洋側：京都、神戸、姫路、洲本、大阪、奈良、和歌山、潮岬）による観測データをもとにまとめました。

1 2014 年（平成 26 年）の特徴

気温：冬から春にかけては変動が大きく、8～9月と12月は低温に

近畿地方の月平均気温平年差（図 1）及び半旬気温平年差（図 2）を見ると、1～4 月にかけては、気温の低い時期と高い時期が交互に現れました。3 月は下旬に高気圧に覆われて晴れた日が多く暖かい空気に覆われた影響で気温が高くなりました。5 月は高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、また、6～7 月は平年に比べ梅雨前線の影響が小さかったことや南から暖かい空気が流れ込んだ影響で気温が高くなりました。8 月は太平洋高気圧の西日本への張り出しが弱く、湿った気流の影響を受けて曇りや雨の日が多かったため、また、9 月は中旬にかけて前線などの影響を受けたことと冷たい空気を伴った高気圧に覆われたことから、気温が低くなりました。11 月は下旬に高気圧に覆われて晴れた日が多く、寒気の影響を受けにくかったため、気温が高くなりました。12 月は冬型の気圧配置になった日が多く、中旬を中心に強い寒気が流入したため気温が低くなりました。

年平均気温平年差は 0.0 で「平年並」となりました。

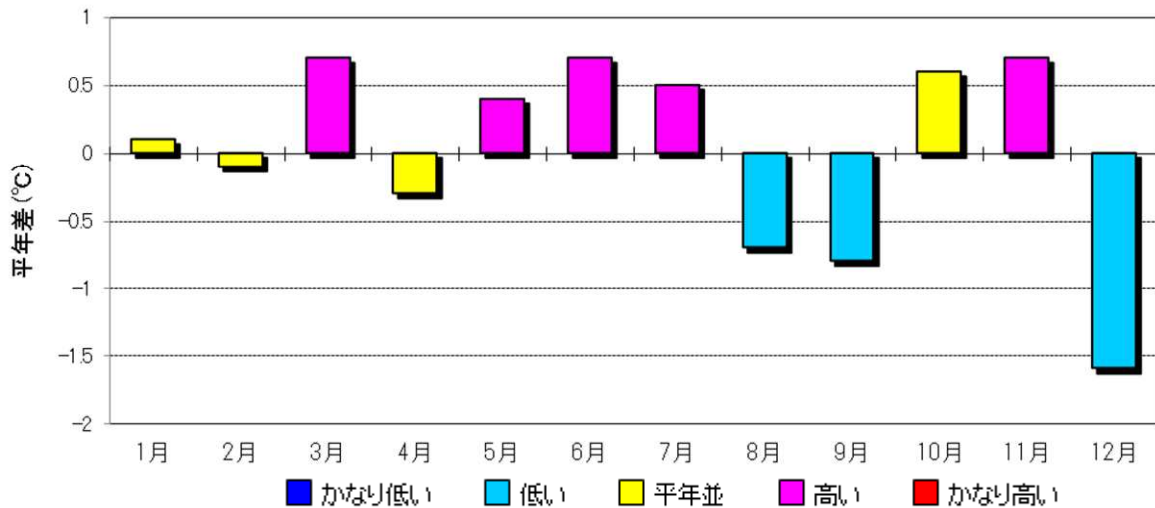


図 1：2014 年（平成 26 年）の近畿地方の月平均気温平年差（近畿 11 観測地点の平均）

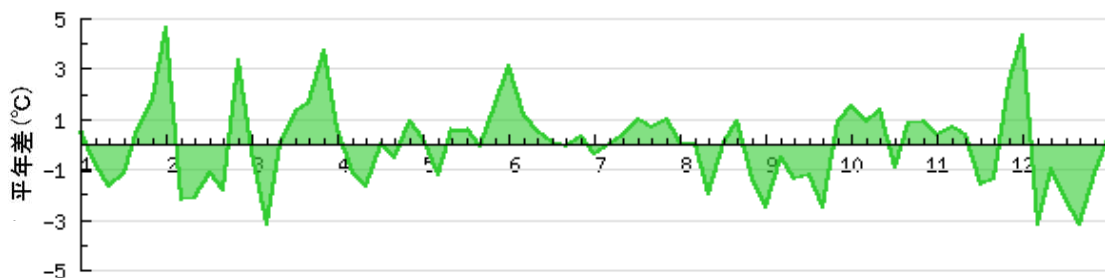


図 2：2014 年（平成 26 年）の近畿地方の半旬気温平年差（近畿 11 観測地点の平均）

降水量：近畿地方の降水量は、6月は統計開始以来最も少なく、8月は最も多く

月降水量の平年比を見ると（図3、図4）日本海側・太平洋側ともに平年を下回る月が多くなりましたが、3月、8月、10月、12月は平年より多くなりました。特に、8月は太平洋高気圧の西日本への張り出しが弱く、湿った気流や台風の影響を受けたため、日本海側・太平洋側ともに降水量はかなり多くなり、1946年の統計開始以来で多い方からの1位となりました。また、近畿各観測地点の8月の月降水量は、統計開始以来で多い方からの1位となった所が多くなりました。7月30日から8月26日にかけては、西日本をはじめ全国的に大雨による大きな災害が発生したため、「平成26年8月豪雨」と命名されました。

一方、6月は梅雨前線が平年より南に位置することが多く、まとまった雨となりにくかったため、日本海側では1946年の統計開始以来で少ない方からの2位、太平洋側では同じく少ない方からの1位となりました。また、近畿各観測地点の6月の月降水量は、統計開始以来で少ない方からの1位となった所がありました。

年降水量平年比は、日本海側は102%で「平年並」、太平洋側は106%で「平年より多い」となりました。

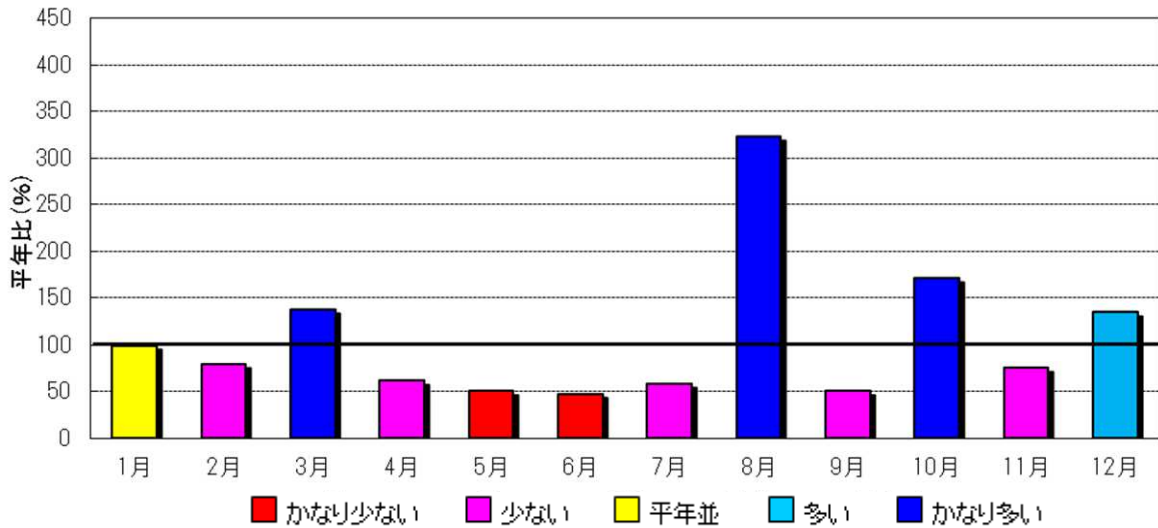


図3：2014年（平成26年）の近畿日本海側の月降水量平年比（近畿3観測地点の平均）

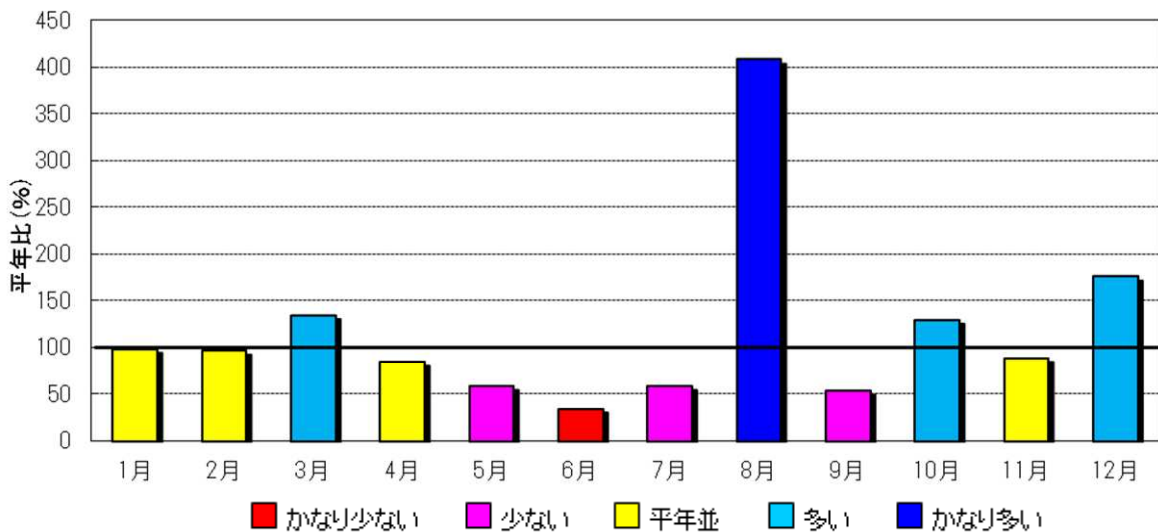


図4：2014年（平成26年）の近畿太平洋側の月降水量平年比（近畿8観測地点の平均）

日照時間：5月の近畿地方の日照時間は、統計開始以来最も多く

月間日照時間の平年比を見ると（図5、図6）日本海側・太平洋側ともに平年を上回る月が多くなりました。特に、5月は高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、日本海側では1946年の統計開始以来で多い方からの3位、太平洋側では同じく多い方からの1位となりました。また、近畿各観測地点の5月の月間日照時間は統計開始以来で多い方からの1位となりました。

一方、8月は太平洋高気圧の西日本への張り出しが弱く、湿った気流や台風の影響を受けたため、曇りや雨の日が多く、日本海側では1946年の統計開始以来で少ない方からの1位、太平洋側では同じく少ない方からの2位となりました。

年間日照時間平年比は、日本海側は103%、太平洋側は102%で、ともに「平年並」となりました。

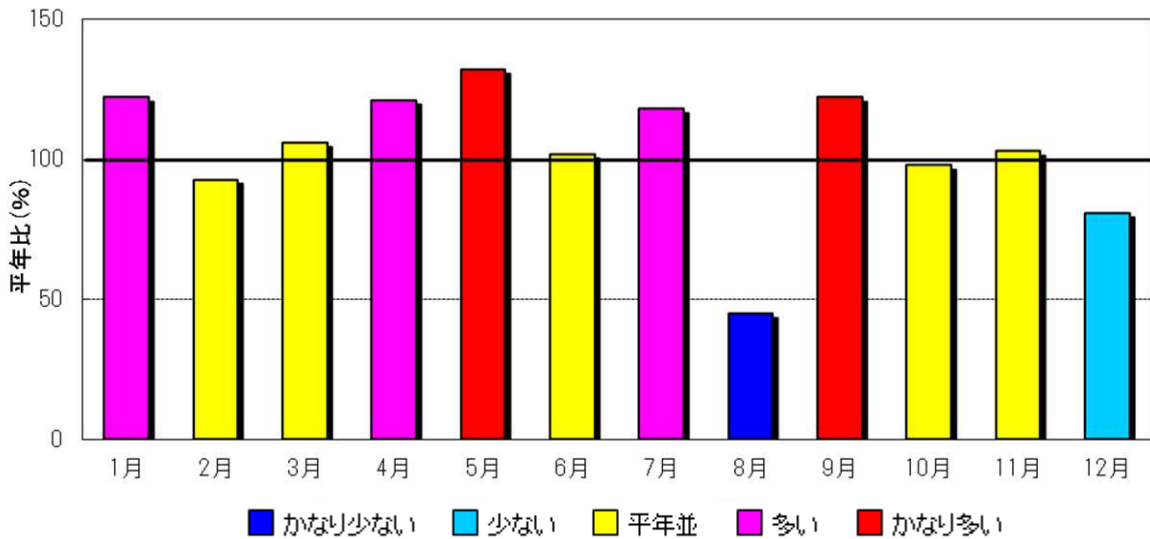


図5：2014年（平成26年）の近畿日本海側の月間日照時間平年比（近畿3観測地点の平均）

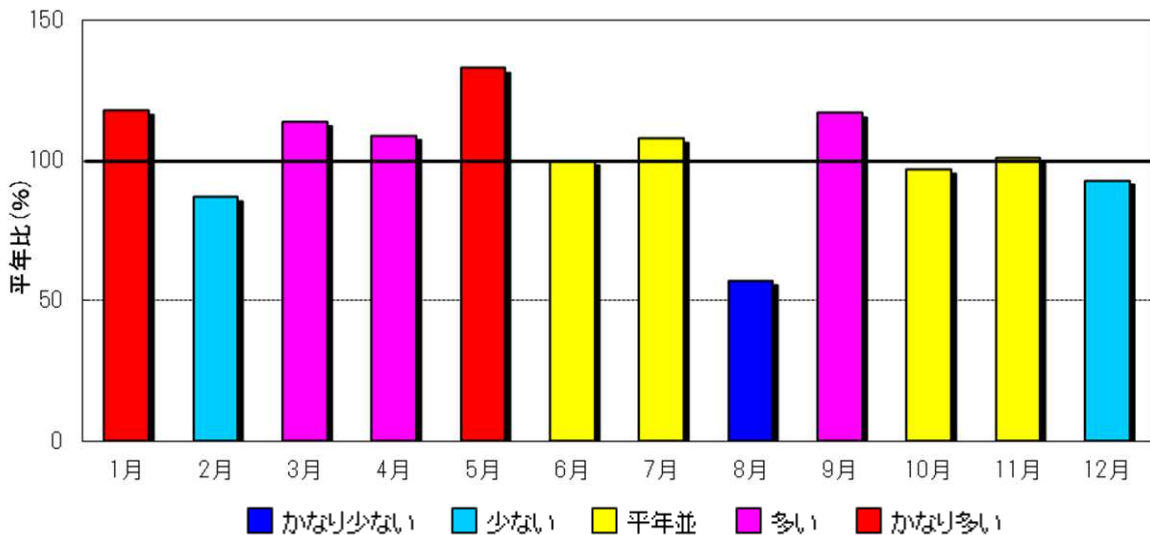


図6：2014年（平成26年）の近畿太平洋側の月間日照時間平年比（近畿8観測地点の平均）

表 1 に各気象要素の統計値を示します。

表 1：2014 年（平成 26 年） 近畿地方地域平均平年差（比）と階級

月	平均気温		降水量				日照時間			
	平年差()	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級
	全域		日本海側		太平洋側		日本海側		太平洋側	
1月	+0.1	0	100	0	100	0	122	+	118	++
2月	-0.1	0	80	-	98	0	93	0	87	-
3月	+0.7	+	138	++	136	+	106	0	114	+
4月	-0.3	0	62	-	86	0	121	+	109	+
5月	+0.4	+	51	--	60	-	132	++	133	++
6月	+0.7	+	48	--	36	--	102	0	100	0
7月	+0.5	+	59	-	60	-	118	+	108	0
8月	-0.7	-	323	++	409	++	45	--	57	--
9月	-0.8	-	51	-	55	-	122	++	117	+
10月	+0.6	0	171	++	131	+	98	0	97	0
11月	+0.7	+	76	-	90	0	103	0	101	0
12月	-1.6	-	135	+	177	+	81	-	93	-

-- かなり低い(少ない)、- 低い(少ない)、0 平年並、+ 高い(多い)、++ かなり高い(多い)

近畿地方の地域平均は、以下の11地点の平均を示しています。

日本海側（豊岡、舞鶴、彦根） 太平洋側（京都、神戸、姫路、洲本、大阪、奈良、和歌山、潮岬）

階級については、平年からの偏りの程度を示しています。

「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の階級は、1981～2010 年における30 年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10 個ずつになる)ように決めています。また、値が1981～2010 年の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現しています。

近畿地方の梅雨入りは平年より早く、梅雨明けは平年並

近畿地方の梅雨入りは6月3日ごろ(平年：6月7日ごろ)で「平年より早く」、梅雨明けは7月20日ごろ(平年：7月21日ごろ)で「平年並」となりました。

表 2：2014 年（平成 26 年）「梅雨の時期の降水量 一覧表」(期間：6～7月)

地点名	実況値(mm)	平年値(mm)	平年比(%)
豊岡	201.0	336.8	60
舞鶴	221.0	350.4	63
彦根	156.0	408.2	38
京都	159.0	434.4	37
神戸	115.0	333.7	34
姫路	148.5	331.6	45
洲本	162.0	340.6	48
大阪	153.5	341.5	45
奈良	211.5	353.9	60
和歌山	175.0	333.5	52
潮岬	350.5	642.5	55

「梅雨の時期の降水量」は、実況値・平年値ともに概ね梅雨の期間に相当する6～7月の2か月間降水量です。

近畿地方への台風の上陸は3個、接近数は4個であった

近畿地方に上陸した台風は、台風第8号、第11号、第19号の3個でした。接近数は、上陸数に台風第18号を加えた4個でした(接近数の平年値：3.2個)。

2 月別の概況

(1月)

日本海側では、高気圧に覆われて晴れた日もありましたが、気圧の谷や寒気の影響で曇りや雪または雨の日が多くなり、期間の中頃は大雪となった所がありました。太平洋側では、曇りや雨または雪の日もありましたが、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。

(2月)

上旬から中旬にかけては、高気圧に覆われて晴れた日もありましたが、気圧の谷や寒気の影響で曇りや雪または雨の日が多くなりました。下旬は高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。強い冬型の気圧配置は一時的で長続きしなかったため、日本海側の降雪量は少なくなりました。一方、たびたび低気圧が西日本の南岸を発達しながら北東進した影響で、太平洋側では大雪となった所があり、降雪量は多くなりました。

(3月)

低気圧と高気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わりましたが、太平洋側では高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。上旬と下旬には、強い寒気の影響で日本海側では大雪となった所がありました。また、13日と30日は低気圧が西日本付近を発達しながら通過した影響で、太平洋側では大雨となった所がありました。

(4月)

低気圧と高気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わりましたが、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。6日は強い寒気の影響で雪の降った所がありました。また、29日は低気圧や前線が西日本付近を通過した影響で、太平洋側では大雨となった所がありました。

(5月)

低気圧と高気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わりましたが、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。このため、近畿地方の日照時間は、1946年の統計開始以来で多い方からの1位となりました。また、上旬の降水量は、1961年の統計開始以来で少ない方からの1位となりました。

(6月)

高気圧に覆われて晴れた日もありましたが、低気圧や梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多くなりました。また、上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、大雨となった所もありました。しかし、梅雨前線が平年より南に位置することが多く、まとまった雨となりにくかったため、近畿地方の月降水量は1946年の統計開始以来で少ない方からの1位となりました。近畿地方は6月3日ごろに梅雨入りしました。

(7月)

期間の前半は、梅雨前線や低気圧及び台風第8号の影響で曇りや雨の日が多くなり、大雨となった所もありました。期間の後半は、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、湿った気流や上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、大雨となった所もありました。梅雨前線の影響は小さく、近畿地方の月降水量は少なくなりました。近畿地方は7月20日ごろに梅雨明けしました。

(8月)

期間を通して太平洋高気圧の西日本への張り出しが弱く、湿った気流の影響を受けやすくなりました。上旬は、台風第12号や台風第11号及び湿った気流の影響で曇りや雨の日が多くなりました。その後も、高気圧に覆われて晴れた日はありましたが、前線や低気圧及び湿った気流の影響で曇りや雨の日が多くなりました。上旬から中旬を中心に記録的な大雨となった所が多くあり、近畿地方の月降水量は1946年の統計開始以来で多い方からの1位となりました。また、月間日照時間は同じく少ない方からの2位となりました。

7月30日から8月26日にかけて、西日本をはじめ全国的に大雨による大きな災害が発生したため、「平成26年8月豪雨」と命名されました。

(9月)

低気圧や前線及び湿った気流や上空の寒気の影響で曇りや雨の日もあり、大雨となった所もありましたが、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。

(10月)

期間の前半は、高気圧に覆われて晴れた日もありましたが、前線や湿った気流及び台風第18号と台風第19号の影響で曇りや雨の日が多くなりました。6日は台風第18号の影響で、13日は台風第19号の影響で広範囲で大雨となり、太平洋側では大荒れの天気となった所がありました。期間の後半は、前線や湿った気流の影響で曇りや雨の日もありましたが、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。27日は一時的に冬型の気圧配置となり、近畿地方では「木枯らし1号」が吹きました(前年は11月4日)。

(11月)

低気圧と高気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わりました。日本海側では高気圧に覆われて晴れた日もありましたが、低気圧や前線及び寒気の影響で曇りや雨の日が多くなりました。太平洋側では曇りや雨の日もありましたが、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。また、上旬と下旬は低気圧や前線の影響で大雨となった所もありました。

(12月)

西日本付近を低気圧や前線が通過した後、冬型の気圧配置となった日が多く、強い寒気が流れ込んだ日がありました。日本海側では、曇りや雪または雨の日が多くなり、上旬から中旬にかけては大雪となった所がありました。太平洋側でも、晴れた日はありましたが、曇りや雨または雪の日が多くなり、中旬は大雪となった所がありました。

各月の詳しい概況は、「近畿地方の天候」を参照してください。

URL : <http://www.jma-net.go.jp/osaka/kikou/chihou/chihou.html>

3 2014年(平成26年) 近畿地方気候表

表3：年平均気温

地点名	年平均気温		
	気温()	平年値()	平年差()
豊岡	14.4	14.3	+0.1
舞鶴	14.5	14.5	0.0
彦根	14.9	14.7	+0.2
京都	16.1	15.9	+0.2
神戸	16.7	16.7	0.0
姫路	15.3	15.2	+0.1
洲本	15.3	15.5	-0.2
大阪	16.7	16.9	-0.2
奈良	14.9	14.9	0.0
和歌山	16.7	16.7	0.0
潮岬	17.1	17.2	-0.1

表4：年降水量

地点名	年降水量		
	降水量(mm)	平年値(mm)	平年比(%)
豊岡	2002.0	2027.1	99
舞鶴	2075.5	1826.6	114
彦根	1449.5	1570.9	92
京都	1377.0	1491.3	92
神戸	1222.0	1216.2	100
姫路	1156.5	1199.0	96
洲本	1854.0	1406.6	132
大阪	1278.5	1279.0	100
奈良	1320.5	1316.0	100
和歌山	1409.5	1316.9	107
潮岬	3045.0	2519.0	121

表5：年間日照時間

地点名	年間日照時間		
	日照時間(h)	平年値(h)	平年比(%)
豊岡	1481.0	1489.4	99
舞鶴	1563.9	1538.8	102
彦根	1970.6	1825.8	108
京都	1824.6	1775.1	103
神戸	2096.0	1995.1	105
姫路	1944.3	2032.6	96
洲本	2021.0	2066.8	98
大阪	2161.3	1996.4	108
奈良	1854.0	1823.0	102
和歌山	2145.2	2088.8	103
潮岬	2267.8	2201.2	103

4 2014年(平成26年) 月別極値・順位値更新表

表6:「月平均気温の高い方から」の順位更新表

月	順位	地点名	月平均気温			
			平均気温()	平年値()	平年差()	統計開始年
6	2	彦根	23.1	21.4	+1.7	1894

表7:「月降水量の多い方から」の順位更新表

月	順位	地点名	月降水量			
			降水量(mm)	平年値(mm)	平年比(%)	統計開始年
8	1	舞鶴	436.0	133.9	326	1947
		京都	487.0	132.1	369	1881
		彦根	430.0	109.0	394	1894
		姫路	295.5	95.9	308	1948
		大阪	341.0	90.9	375	1883
		和歌山	449.5	86.0	523	1879
		潮岬	1049.0	233.2	450	1913
	2	豊岡	314.5	127.0	248	1918
		奈良	357.5	111.8	320	1953
	3	神戸	354.0	90.9	389	1897
洲本		574.5	106.9	537	1919	

表8:「月降水量の少ない方から」の順位更新表

月	順位	地点名	月降水量			
			降水量(mm)	平年値(mm)	平年比(%)	統計開始年
6	1	京都	61.0	214.0	29	1881
		姫路	52.0	164.6	32	1948
		神戸	45.5	181.6	25	1897
	2	奈良	77.5	188.8	41	1953
	3	彦根	53.5	190.5	28	1894

表9:「月間日照時間の多い方から」の順位更新表

月	順位	地点名	月間日照時間			
			日照時間(h)	平年値(h)	平年比(%)	統計開始年
1	1	彦根	149.3	98.5	152	1895
	3	和歌山	180.3	134.8	134	1890
		潮岬	237.9	189.1	126	1913
5	1	洲本	271.1	202.4	134	1919
	2	和歌山	272.6	202.3	135	1890
	3	神戸	260.7	193.7	135	1897
		大阪	263.2	194.3	135	1890

表10:「月間日照時間の少ない方から」の順位更新表

月	順位	地点名	月間日照時間			
			日照時間(h)	平年値(h)	平年比(%)	統計開始年
8	1	彦根	108.0	209.1	52	1895
		姫路	89.6	211.5	42	1948
	2	豊岡	80.0	191.9	42	1918
		舞鶴	83.1	196.9	42	1947
		京都	96.1	182.7	53	1890
		神戸	115.3	215.5	54	1897
		洲本	116.1	231.1	50	1919
		奈良	118.4	205.4	58	1953
		大阪	147.4	216.9	68	1890
	3	潮岬	135.5	234.6	58	1913

注:月平均気温、月降水量合計、月間日照時間について、極値・順位値が更新された統計項目について掲載しています。また、掲載は、極値・順位値3位までの更新分としています。

なお、各統計項目が掲載されていない月は、極値・順位値に更新はありません。